

2. 植物調査について

【調査時期】

- 植物調査に先立ち、調査方法・その他調査の必要性等の検討や早春にしか見られない重要種の調査を兼ねて現地踏査を実施した。
- 植物調査は春、秋に各1回、計2回実施した。
- 調査時期は周辺域に生育が確認されている重要植物の開花期に合わせて設定した。

時期	調査日時	天候	選定理由
早春	平成29年4月25日	-	調査方法・その他調査の必要性等の検討
	平成29年5月10日		早春にのみ確認される重要種の生育状況の確認
春	平成29年6月9日	晴れ	春季に開花する植物の確認 (ヤマシヤクヤク、クゲヌマランの開花期)
	7:00~13:00		
秋	平成29年9月28日	曇り	秋季に開花する植物の確認
	9:00~15:00		(ホンハツルリンドウの開花期)

【調査方法】

- 調査範囲を踏査し、確認した種を記録する植物相調査を実施した。
- 重要種が確認された場合には、種名およびその株数・群落規模・確認位置等の情報を記録した。
- 調査対象はトンダ植物以上の高等植物とする。
- 調査地点は坑口予定地周辺にあたる延長600m（起点側400m、終点側200m）幅50m（片側25m）にわたる範囲を対象とした。

【レッドデータブック (RDB) カテゴリー】

高	北海道レッドリスト	環境省版レッドリスト	危険度
↑	絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	↓
	野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	
	絶滅危惧 IA 類 (CR)	絶滅危惧 IA 類 (CR)	
	絶滅危惧 IB 類 (EN)	絶滅危惧 IB 類 (EN)	
	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)	
	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	低	

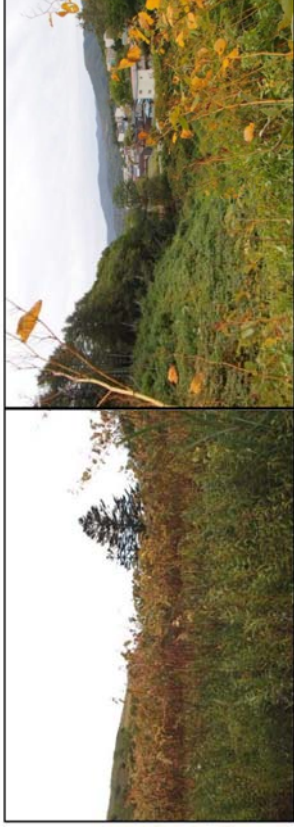
高	北海道レッドリスト	危険度
↑	絶滅 (EX)	↓
	野生絶滅 (EW)	
	絶滅危惧種 (CR)	
	絶滅危惧種 (EN)	
	絶滅危惧種 (VU)	
	希少種 (R)	
留意種 (N)	低	

すでに絶滅したと考えられる種または亜種
本道の自然界ですでに絶滅したと考えられているが、
飼育等の状態で生存が確認されている種または亜種
絶滅の危機に直面している種または亜種
絶滅の危機に瀕している種または亜種
絶滅の危機が増大している種または亜種
存続基盤がせい弱い種または亜種
保護に留意すべき種または亜種



起点側坑口周辺 (6月9日)

終点側坑口周辺 (6月9日)



起点側坑口周辺 (9月28日)

終点側坑口周辺 (9月28日)

4. 動物調査について

【調査時期等】

- ・春～夏、秋～冬に各1回、計2回実施した。
- ・定点調査法と猛禽類営巣地確認調査を実施した。
- ・調査時期は鳥類の繁殖期や巣の視認性を考慮し設定した。

定点調査法

時期	調査実施日	選定理由
春～夏	平成 29 年 7 月 5、6 日	繁殖状況の確認をするため
秋～冬	平成 29 年 11 月 28 日 12 月 4 日	越冬期における行動圏を把握するため

猛禽類営巣地確認調査

時期	調査実施日	選定理由
秋～冬	平成 29 年 11 月 28 日 平成 30 年 1 月 31 日	巣の視認がしやすい落葉期であるため

【調査方法】

- ・ 昇晴らしの良い箇所に設置した調査地点から、双眼鏡や望遠鏡を用いて観察を行い、出現した種を記録した。
- ・ 調査は1回の調査につき、2地点で、1日8時間×2日間実施した。
- ・ 調査時間は鳥類の行動が活発な早朝を含む時間帯とした。

定点調査法



猛禽類営巣地確認調査

- ・ 現地範囲を踏査し、猛禽類の営巣木およびクマガラ芽孔木（営巣木、ねぐら木、採餌木）の探索を行った。
- ・ 確認した営巣木については、位置および利用状況（痕跡状況）等を記録した。
- ・ 調査地点は、計画路線（トンネル区間を含む）1.8km区間、幅500mとした。



【レッドデータブック (RDB) カテゴリー】

環境省版レッドリスト

絶滅 (EX)
野生絶滅 (EW)
絶滅危惧 I A 類 (CR)
絶滅危惧 I B 類 (EN)
絶滅危惧 II 類 (VU)
準絶滅危惧 (NT)
情報不足 (DD)

北海道レッドリスト

絶滅 (EX)
野生絶滅 (EW)
絶滅危惧 I A 類 (CR)
絶滅危惧 I B 類 (EN)
絶滅危惧 II 類 (VU)
準絶滅危惧 (NT)
情報不足 (DD)
留意種 (N)